

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-105

学校名・団体名	御船町立滝尾小学校
HPアドレス	<a href="http://es.higo.ed.jp/takiosyo/">http://es.higo.ed.jp/takiosyo/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	命を守り、郷土を誇れる防災教育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、校区を御船川が流れ、山に囲まれた自然豊かな学校である。今回の熊本地震により通学路の国道445号線が不通になり学校を移設して教育活動を再開し8ヶ月を過ごした。本校は、これまでも崖崩れ、洪水など自然災害に見まわれた地域である。</p> <p>そこで、地域の地形や自然、過去の災害などを調べ、危険箇所を把握し、校区に必要な防災の在り方について考える。また、各学年、地域学習で、地域の人や自然とのふれあいを行い、地域のよさを考える場を設ける。地域を調べ、学ぶことで、災害時には、自分を守り防災の視点をもった行動がとれる児童の育成をめざす。更に、児童の学びを保護者にも広げ、PTAと連携した防災教育を推進していく。</p> <p>校区の危険箇所等などを再点検し、災害時にどう行動するのかなど、自分の命は自分で守る（自分で考え行動できる）児童の育成を目指し本校の防災教育を再考していくことにした。</p>	

## 1 研究主題

命を守り、郷土を誇れる防災教育

## 2 ねらい

- ① 職員の危機管理意識を高め、防災教育の計画を見直し、避難訓練をはじめ、教育活動全体で防災教育を推進する。
- ② 総合的な学習の時間等で、校区の自然を調べたり、人々と交流したりするなどの活動を通して、郷土のよさにふれ、自分の郷土を守っていこうとする主体性のある児童を育成する。

## 3 取組の実際

### (1) 児童を対象にした防災教育

#### ① 「命の日」の集会(6月17日) 対象：全児童

東日本大震災を体験した仲松 晃主幹教諭(熊本地震による宮城県派遣)の話聞き、東日本大震災の様子を知り、命について考えた。その後、各学級で自らの命について見つめ、命の大切さについて話し合った。

#### ② 防災集会(各月第2火曜日) 対象：全児童

毎月1回、防災集会を実施した。集会では、防災ミニ知識として、  
・危険箇所て身を守る方法 ・避難の仕方 ・身の回りの危険  
など考える学習や地域の素晴らしさを考える郷土学習に取り組んでいる。月1回の集会であるが、教育計画に位置づけ取り組むことで、「自分の命は自分で守る」児童の育成につながってきた。また、郷土のよさを見つめることで、郷土の危険箇所を調べていこうとする意欲も高まってきている。

#### ③ 避難訓練(学期2回) 対象：全児童

様々な場面を想定した避難訓練を学期に2回実施した。御船中学校に移設時には、中学校と合同で取り組んだ。防災集会で学んだ知識を実際に行動し、実践につなぐようにしている。

#### ④ 子どもたちの未来を守りたい(2月21日) 対象：第6学年児童

講師：NPO法人さくらネット 河田 のどかさん

小学校1年生で阪神淡路大震災を経験し、現在、防災教育に取り組んでおられ、河田 のどかさんをゲストティーチャーに招き、「防災教育」を基盤とした生き方教育の視点で道徳の授業に取り組んだ。児童は、河田さんの話から、「自分の命は自分で守ること」「自分たちが今受けた支援に感謝しできることをしていきたい」など、自分たちの生き方を考える場となった。



防災集会



中学生と合同の避難訓練



第6学年 河田さんの授業

### (2) 地域・家庭と一体となった防災教育の推進

#### ① 地域防災教育懇談会 対象：地域住民、(区長、PTA4役、交通指導員、学校評議員 他)

講師：NPO法人さくらネット 石井 布紀子 代表理事

安心・安全なまちづくりを進めるために、まず地域のよさや古くから伝わる文化など話し合い、校区の危険箇所について確認を行った。それぞれの立場から、意見をいただき、貴重な情報収集の場となった。また、地域学習の視点から教育活動への協力依頼を行うこともできた。

- ② (PTA親子防災教育講演会 対象：全児童、保護者、地域住民  
講師：兵庫県震災・学校支援チームEARTH諏訪 清二さん  
防災教育でまず大切なことはあいさつをすること、地域の中の一員として生きること、など、防災教育の視点を広げて考えることができた。保護者は、震災後1年を迎えるにあたり、親として気をつけることなど学ぶ機会となった。



防災講演会

(3) 教職員で取り組む防災教育

- ① 校内研修：講話（これからの防災教育）9月14日  
講師：兵庫県震災・学校支援チーム EARTHの諏訪 清二さん  
これから取り組む防災教育はどんなことか。学校でこれから進めていく防災教育について諏訪教諭の講話を聞いた。また、震災後の児童の心の変化など、神戸や東北の児童生徒の姿から具体的に話をしていただいた。学校総体として取り組む防災教育の方向性を考える研修の機会となった。
- ② 校内研修：講話（子どもの心の理解とケア～東日本大震災等の経験を生かして～）11月28日  
講師：仲松 晃 主幹教諭  
実際に宮城県で被災された仲松主幹教諭の講話を聞いた。児童の対応で半年後、1年後に気をつけることについて具体的実践をとおして話していただいた。教育現場での取組だけではなく、教職員自身の精神状態をどう保っていくのかなど、多面的に考える機会となった。
- ③ 防災教育年間計画の見直し  
兵庫県震災・学校支援チーム EARTHの諏訪 清二さんに、本校の防災教育、年間計画の作成に向けて助言をいただき、本校の現況にあった防災教育の計画を作成した。各学年総合的学習の時間を中心に系統的に取り組んでいくことにした。主な改善点は、以下のとおりである。

(変更点) 総合的な学習の時間を年間15時間防災教育の視点での取組を行う。

- ・地震についての学習 3時間(全校一斉)、
- ・災害後との学習 12時間(各学年ごと) 1年 校舎内の安全 2年 通学路の危険 3年 河川災害  
4年 地震災害 5年 気象災害 6年 火山噴火
- ・次年度の防災教育を実践するにあたり、子どもたちの「心のケア」、地域を知り、地域に愛着をもつ という視点をもって取り組む。(別添計画作成)

4 成果と児童の変容

- 児童の防災への意識が高まりつつある。繰り返し取り組んできたことで防災時のどう行動するか分かってきた。今後もあらゆる場面で行動できるように行動化につなげていく取組を継続していく。
- 多くの人の出会いや学習の中で、感謝の心も育ってきた。  
3月4日に行った学習発表会の中で、熊本地震で体験し考えたことを地域に発信する姿が見られた。熊本地震をマイナスで考えるだけではなく、自らが考えたことをまとめたことで、これからの自分の生き方を考えはじめた児童もいる。今後も継続して取り組んでいく。また、御船中学校の思い出をまとめ記念誌を発行した。児童の成長を家庭や地域に発信することができた。
- 地域・家庭・学校が一体となって児童を守ろうとする意識が更に高まってきた。多くの方が登校指導に取り組んでいただいたり、学校行事に参加していただいたり、昨年以上に協力体制ができてきた。地域の中の児童という意識を更に高め、校区と一体となった取組の推進を図っていく。



学習発表会